

内なる I D 対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

①「ゆ党」の躍進?に想う!そこにある暗示?とは何か?!

I : ということで、今回から、新たに「内なる I D 対話～『意味ある世間話』となるや、否や?!～」ということにして、私とあなたとの遣り取りを続けていきたいと思いますが、まずは、どういうテーマからいきますかね?先号(前シリーズの最後)で出てきた「沖縄をどう思うか?」ということに関わって、何か話が出来たらいいなと思ってはいるのですが、いかがですか?

D : 純粋な(過激な?)政治談議は、私は、あまり好きではないので(ある意味申し訳ないので!)、それ自体は忌避したいのですが、そう言えば、もう大分前になりますが、先の衆議院議員選挙で、「ゆ党」と呼ばれる(揶揄されている?)、ある政党の動向(存在?)に関わって、少し思うところがありましたので、その辺を出し合ってみたいと思いますね!

I : 確か、その「ゆ党」とは、『野(や)党』でもない、『与(よ)党』でもない!('や'と'よ'の間?)ということかと思いますが(誰が名づけたのかは知りませんが!)、かなりの躍進?で、その存在の意義が高まってきた?そういうことですよ?!また、例の「無党派層」が、そこに流れ込んだ?

D : そういうことですね!もちろん、その絶対数が驚異的に増えたということではないのですが、既存の「野党」と「与党」の間に、その「ゆ党」が入り込み、それなりの支持を得た?そういうことですよ?!ただし、どこかの県の場合は、それとはほとんど無関係に、全体としては、従来通りの結果(一つの意外?を除いて!)となった?そういうことでもあります…

I : ええ、確かにそうですが、いずれにしても、そうした状況(異変?)を、我々 I D としては、どのように見るのか?そういうことですよ?!従来、よく「保守(右)」と「革新(左)」という対立軸で、政治の世界が見られてきたわけですが、その辺りが変質してきている?!そういうことですよ?

D : 要は、現実的には、最早そうした対立軸は、ほとんど意味をなさなくなっているのではないかということですが、実は、私が、ここで取り上げたいのは、いわゆる「変化(革新)」というものは、もちろん「政治」の世界だけではないのですが、どういうメカニズム(力学)で生まれてくるのか?そういうことなのです!

I : 例えば、「教育」の世界ではどうなのかとか?そういうことですか?!

D : そういうことです!実際に、そうになっていたかどうかはともかく、人間社会には、その社会が有している価値とか慣行を守るという立場・価値観の人と、それらを改める(壊す?)という立場・価値観の人がいるわけで(意識や社会的行動として)、その意味では、ある種永遠に、その関係は続くものであるし、したがって、その相剋(政権交代含む)によって、そこでの現実が生み出される?!

I : しかし、よく考えてみると、無条件(永遠?)の「保守」とか「革新」とかというものはないですよ?!ある場合には、「革新」が「保守(的)」であったりもする?!だから、どういうことを「保守」(「革新」)しようとしているのか?そこが問われるわけですが、誰(どこ)が、そののところを正しく受け止め、説明していけるのか?まさに、その部分が、最も難しい(厄介である)?!

D : まったくですね!ただ、その根っ子には、「社会悪(不正・差別・貧困等)」に対する対処の当否(「錦の御旗」としての「正義」?)に関わる?!最近の「多様性」とか「グラデーション」の主張(主座化)も、そのことと大いに関係している?!とにかく、今回の、かの「ゆ党」の躍進?は、どこかでそういうことを暗示している?!そう思ったりもします!あくまでも「やゆ(揶揄?)」の「ゆ」なのか、それとも、「ゆ(う)よ(猶予?)」の「ゆ」なのか?はたまた、「揺(ゆ)さぶり」の「ゆ」なのか?そこら辺も、注目すべきなのかもしれませんね?!まさに社会は、既にそういう位相となっている?!

(つづく)